



日本聖公会婦人会 2020年9月30日発行
ニュースレター No. 71

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 2-1-8 日本聖公会大阪教区事務所内
TEL 06-6621-2179 FAX 06-6621-3097

「主よ、お話し下さい」

日本聖公会婦人会チャプレン
司祭 テモテ 内田 望

主の聖名を賛美いたします。

今年の2月以降、新型コロナウイルス感染拡大によって、世界中が傷ついています。教会も3月上旬から約3カ月間、礼拝が非公開のため、教会に集まって賛美できないつらさを、教会の仲間と会えない寂しさを感じてきました。本来、教会は神さまによって呼び集められ、イエスさまを中心に、「つながり」が深まっていき、その場が「神の国」になっていく場であるはずですが、そこに目には見えない神の国が創造されます。人と人が声をかけ合うことを通して、愛や許しが深まり、神さまの業に協力して、神の国を築き上げていく。礼拝が再開したときの皆さまの顔は忘れられない。こんなにも声をかけ合うことが嬉しいことか。この困難な時期だからこそ、教会の仲間とのつながりに思いを馳せ、そのつながりの中で私たちは一致へと招かれていることを感謝し、喜びました。

人は「つながり」の中でしか生きていけない存在です。人は声をかけ合っていく中で「つながり」が深まり、寂しさから解放されていきます。こんなにも人から声をかけられることが嬉しいことならば、神さまから声をかけられるとどんなにか嬉しいことでしょうか。神さまはいつもどんな時にも人に声をかけておられます。神さまの声は、劇的にではなく、自然界を通して、また、今日、目に留まった聖書の一節を通して、ひっそりと、静かに私たちに呼びかけています。少年サムエルのように。「主よ、お話し下さい。僕は聞いております。」（サムエル記上第3章10節）。神さまは私たちにとっても強い関心をいつも寄せておられます。だから、私たちに声をかけてくださいます。私たちを包み込むように、やさしい声で。「心配しなくても大丈夫、大丈夫」「わたしはいつもあなたに寄り添っているよ」「大切ですよ。あなたはわたしにとって」と。私たちが沈黙の中に身を置くと、愛に満ちた神さまの声が聞こえてきます。この声を聴く時、生きる力が、勇気が、慰めが与えられます。

神さまの癒しのみ手に支えられて、新型コロナウイルス感染拡大によって、不安と混乱に襲われた世界が希望を、心の平安を取り戻すことができますようにお祈りいたしております。

日本聖公会婦人会第26(定期)総会後第1回会長会報告

6月16日(火)午前10時30分、開会聖餐式を持って、第26(定期)総会後第1回会長会が開催されました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、全国からお集まり頂くことが出来ず、Zoomを用いてオンラインで礼拝に参加して頂くこととなり、各教区婦人会・感謝箱献金事務局から寄せられた代祷は、大阪教区婦人会代表者が、心を込めてお祈りを献げさせて頂きました。



開会聖餐式後、出席者全員での集合写真

午後1時30分からはZoomを用いてのオンライン会議、大型スクリーンと2台のパソコンを用いての異例の会議が始まりました。9教区婦人会代表・本会会長・本会副会長の点呼は、前もって郵送した



スクリーンに映し出されたリモートの参加者

お名前の用紙を掲げて頂き、傍聴者が映る中、井上恵美子会長の開会宣言、チャプレン内田望司祭のお祈り、井上恵美子会長の挨拶、日本聖公会婦人会担当主教磯晴久大阪教区主教の挨拶に続き、議長選出と会場書記の指名が行われた後、議事に入りました。

まず、役員会、感謝箱献金事務局(コア)運営委員会報告からの追加説明では、第25(定期)総会時の決議第13号「感謝箱献金事務局(コア)運営委員長とコアスタッフの任期を揃える件」に於いて

2017年から任期が始まることの確認、会計検査、本会会計の報告が行われ、すべて承認されました。

引き続き、要項記載順に議案番号が振られ、10の議案審議に入りました。

審議にて可決された議案 (決議)

決議第1号	エルサレム教区「聖地ろうあ子どもの里-HLID (The Holy Land Institute for the Deaf)」の財政の一部援助、及び「2ヶ所のシリア難民キャンプでの支援活動」等、アウトリーチ活動の継続のために20万円を2020年の1年間お献げする。
決議第2号	バングラデシュのキリスト教徒少数民族ガロの女性達の活動を、共に支える「リグリマ・ジャパン」に25万円をお献げする。
決議第3号	サイディア・フラハの活動に対し、2020年度に25万円をお献げする。
決議第4号	アルディ ナ ウペポ (東アフリカの子供を救う会) のウガンダのグルにある職業訓練所の裁縫教室の内容充実 (教材となる布等の購入) と卒業生たちのアフターケアのために20万円を2020年の1年間お献げする。
決議第5号	「認定 NPO 生活困窮・ホームレス自立支援 ガンバの会」の働きの中の「夢塾」の働きのために2020年度に15万円お献げする。
決議第6号	中部教区「国際子ども学校」の活動のため。保護者が授業料を払えない状況にある子どものための教科書や教材費、また学びに必要な経費の一部として、2020年度1年間、20万円をお献げする。
決議第7号	中部教区「NPO 法人ワンダタイム」の活動のため。特に海外医療協力事業として、2020年度のバングラデシュ・ジョイラムクラ・クリスチャン病院への医師派遣に必要な経費の一部として、2020年度1年間10万円をお献げする。
決議第8号	医療のない場所にスタッフを派遣して人々の活動や病気の予防に力を注ぐ国際的な民間の医療に取り組んでいる「国境なき医師団日本」の活動のため、2020年度1年間10万円をお献げする。
決議第9号	2020年度感謝箱献金事務局 (コア) 運営費補正予算
決議第10号	2020年度一般会計補正予算

※決議の詳細は、『日本聖公会婦人会第26 (定期) 総会后第1回会長会決議録』参照

全ての議事が終了し、書記の議事録の朗読が行われた後、役員会で審議して了承した「被献日献金活用実施申請」の教区婦人会枠 (1件)・コア枠・神学生枠 (9名) についての報告が行われました。

引き続き「被献日献金活用実施申請」の有志グループ枠 (1件) と聖職候補生枠 (1件) の審査に入りましたが、有志グループ枠は否決され、聖職候補生枠は賛成多数で可決・承認されました。

役員会で審議・承認された被献日献金活用実施申請

教区婦人会枠	神戸教区	3年に1度の神戸教区婦人会の代表者会・大会開催のため(延期)	60,000円
コア枠		お献げ先の報告会、交流会に関する費用を研修費として	200,000円
神学生枠	梁 権模	The Oxford Dictionary of The Christian Church 他(計2冊)	31,991円
	藤井 和人	新共同訳旧約聖書注解I・II	35,200円
	佐藤 充	EKK 新約聖書註解1/3 マタイ福音書 他(計7冊)	49,100円
	高野 洋	新共同訳新約聖書注解 他(計3冊)	50,000円
	尾関 敏明	新版総説旧約聖書 他(計7冊)	31,257円
	染谷 孝章	イングランドの宗教 他(計8冊)	48,807円
	福永 澄	宣教のパラダイム転換上・下 他(計9冊)	49,302円
	三浦 千晴	礼拝論入門～説教と司式への実践的助言 他(計4冊)	34,232円
	直井 岳	イングランドの宗教 他(計8冊)	36,234円

会長会で審議・承認された被献日献金活用実施申請

聖職候補生枠	宮田 裕三	キリスト教神学資料集 他(合計4冊)	50,000円
--------	-------	--------------------	---------

閉会の祈り、婦人の祈り、主の祈りを共に唱え、磯 晴久主教の祝祷で会長会を無事に終えることが出来ました。

本来なら、全国からお集まりいただき、2日間かけて行う会長会であるところですが、移動自粛が解除されず、礼拝・報告・審議・審査を5時間強で終えようと無謀な計画を立てました。勿論、日程変更については悩み検討を重ねましたし、お顔を合わせての分かち合いや交流の時を持つこ

とは出来ないが会長会として良いのかどうか、などの話し合いも行いましたが、結果として、全国の皆様の協力のもと、予定通りに終える事が出来ました事、心よりお礼を申し上げます。

(『日本聖公会婦人会第26(定期)総会后第1回会長会決議録「会長会を振り返って」』からの抜粋)



会場の様子



教区婦人会・感謝箱献金事務局から

北海道教区

「ミニバザー」

会長 神林直子

北海道では各教会の婦人たちの手によって、教区礼拝や教区婦人会総会、分区集会などで必ずミニバザーが開かれております。60年も前にいち婦人の「献金はできないけど、献品はできる」の一言から始まったと聞いております。



各教会の婦人会のお仕事会から、手作りのエプロンや聖書カバーなど、またハスカップやブルーベリーのジャムにクッキーやケーキなど、たくさんの手作り製品が集まってきます。ある農村の婦人会では春、山に分け入り山蕨を集め、塩漬けにして出品していました。馬鈴薯があったり、自家製餅米で餅をついて来てくださったたり、本当に色々なものが集まってくるのです。「これからミニバザーを開きます」の声がかかると賑やかに、あちこちで笑顔の交流が始まります。

それらの品々が各教会婦人会の活動費となってきました。今年は全ての集会が中止になりました。あの楽しいミニバザーも開かれません。各教会の婦人の皆様はどうしておられるのでしょうか？

礼拝出席も自粛の日々、1日も早くこの感染症が終息して、礼拝や集会でミニバザーが開催され、お会いする日が来ますようにと願っております。その時まで健康で過ごされますようお祈り致します。

東北教区

会長 赤坂康子

昨年2月、東北教区第46回婦人会総会が開催され、役員会は宮城県から岩手県にバトンタッチされました。幼稚園、牧師館の改築工事と重なり、役員会開催場所、郵便物受取り場所、その他様々なことが通常通りにいかず、待望の幼稚園完成後には新型コロナウイルス感染が拡大し始めました。6月ブロック会（親睦を兼ねての県毎の研修会等）、10月各婦人会の代表者会議も中止せざるを得なくなり、来年2月の総会も、交流を深める楽しい集まりを計画したいのですが、どうなることでしょうか。皆で顔を合わせての楽しい集



「役員会だより第5号」の郵送の準備をしているところ

会ができた時の日常が、いかにありがたいことであったかを、実感いたします。

集会を持たせないので文章を通しての交流が大切と考え、「役員会だより」(教区のホームページにも前号から掲載)の発行に力を入れました。

会員の高齢化と会員数減少が課題ですが、目の前の与えられた活動をしっかり行い、認められる活動であれば、きっと次に繋がるであろうことを信じています。今年は東北教区成立100年となり、「教区婦人会」、「敬老基金運営委員会(見舞金、祝金の活動)」の歩みをまとめてみました。先達の尊いお働きに敬服すると共に、繋がっている今を感じています。

北関東教区

会長 林潤子

3月3日に役員引き継ぎを行い、新しいスタートを切った途端の新型コロナウイルスによる緊急事態、礼拝を始め全ての動きがストップする中、4月の教区合同礼拝と婦人会主催のバザーは一旦秋に延期となり(このことについては今般今年度の実施は信徒教役者の集いと合わせて正式に中止の決定が為されました)、教区婦人会としては前年度総会と引き継ぎがよく出来たものと思うほどです。ただその中で私共小山聖ミカエル教会は普段から少人数ということもあり、礼拝の休止もほんの数回で、4月より感染予防策をしっかりととりながら変わらず主日礼拝をお献げし、婦人会役員会も休むことなく毎月開催して参りました。



役員会ではチャプレンより講話をいただき、聖書を読み、お祈りし、心静かなひと時をもっています。全員初めての役員経験でもあり、Zoomという新しい手法で日本聖公会婦人会会長会に参加したり、他教区の教区報やその他送付される様々な資料を拝見しながら婦人会の役割について学んでいます。他教会でも6月よりやっと礼拝が再開され、バザー中止を受けて献金のご協力をお願いしているところです。皆様の御無事をお祈り致しております。

横浜教区

会長 黒田則子

横浜教区婦人会は30を超える教会・伝道所などで600余名の会員がそれぞれの場所で奉仕活動をしています。オールター・ギルドは2年毎に実技などの研修会を開き、またマルタ会は教区の祝会があるときに食事を準備する役目を果たしています。婦人会が存在しない教会もありますが、教区婦人会の活動にはいろいろな形で参加しています。

役員は4つの地域グループが2年交代で当番を引き受けています。毎年1月に総会が開かれ、各教会の会長らが集まり、一年間の活動報告、会計決算・予算などの審議をします。来年1月に向けてそろそろ準備を始めなければなりません、大勢で集まることが難しい場合、ネット会議を開くことも検討

中です。

大会は2年毎に開かれます。今までは1泊2日で講師を招き、また普段会えない他教会の信仰の友と交わる良い機会でした。本来なら来年が大会の年ですが、今までと同じには出来ないだろうと役員で模索中です。

教区婦人会の活動が制限される中で唯一出来たことは、「婦人会だより」の発行です。コロナ自粛の中、各教会の様子を知りたいと、まずは役員が所属教会の様子を載せました。これから教区内の他地方へ広げていく予定です。



昨年の大会にて (2019年5月14日～15日)

中部教区

会長 長井登茂子

中部教区は愛岐伝道区・長野伝道区・新潟伝道区に26の教会があります。2020年、婦人会や女性の会として活動しているのは愛岐で3、長野で2の合計5教会、会員数は118人(個人会員8人を含む)です。総会を開くことはできず、毎年1月に伝道区の代表者と役員、チャプレンが集まって代表者会を行い、前年度の振り返りと本年度の活動、予算を決めています。

毎年各伝道区で女性を中心とした信徒の学びと親睦の行事が行われています。今年度も予定されていましたが、愛岐伝道区では中止、長野伝道区では年明けに延期となりました。

2019年7月21日 長野伝道区「女性の集い」(於:松本聖十字教会)



講師 西原美香子さん(日本YWCA 幹事)
演題 「女性の活躍の場と教会の宣教
—YWCAの働きから—」



講演後、課題の「ストローのタワーを作る」を体験

中部教区の2団体「国際子ども学校」、「NPO 法人ワンダタイム」で日本聖公会婦人会の感謝箱献金を活用させていただき感謝しています。これからも感謝箱献金やその他の諸献金をお献げし、必要とされている方々へ少しでもお役に立てるように、中部教区婦人会の活動を続けていけるように努めていきたいと思っています。

京都教区

代表 森岡月子

主のお導きが常にありますように。

私達京都教区婦人会は6伝道区(北陸・若丹・京都・大和・三重・和歌山)で26の登録教会で組織され、2年毎の伝道区当番制を敷いて活動をしています。



1年目の2019年は代表者会を開催でき、今年は大会の年、多くの会員の方が集い、交わり、一つになる大切な行事が、世界中に感染者が増え続ける新型コロナウイルスによって7月開催予定を断念せざるを得ませんでした。その後10月に代表者会のみを開催すべく、準備を重ねてきましたが、会員の皆さまの安全・安心がこの収束が見えない状況の中で担保できるかどうか検討を重ねた結果、開催は中止にして書面での議決に変更させていただきました。

コロナウイルス禍で私たちの日常は大きく変わりました。どの教会も同様ですが、京都教区でも各教会それぞれが早めの対応をして、教区で各教会のデータを共有しています。主日礼拝の休止や時短の工夫・愛餐会の休止など、最大限の「3密対策」をとり、窓全開・マスク着用・手指消毒・礼拝後は速やかに帰宅して過ごす。すべては自分と周囲の命を守る必要な行為です。

変わり行く日常を受け止め、どんな時も常にそばにいてくださる主に祈りを献げます。感謝

大阪教区

会長 山村小夜子

大阪教区婦人会は、毎年昇天日に礼拝と総会を開催します。今年度においては新型コロナウイルスの影響を受けて昇天日礼拝・総会が中止となりました。それ以降予定されていた秋の修養会も断念せざるを得なくなりました。また聖ヨハネ学園ミス・ブール記念ホームでの毎月1回の喫茶奉仕は施設の判断により一年間休止することになりました。月に一回集まる代表者会はソーシャルディスタンスを保ちながら、6月より再開しています。2020年はこのように予定の活動ができていませんが、昨年5月上旬には一泊親睦旅行を実施しました。行き先は愛知県日間賀島・豊橋方面です。参加者約80名。知多半島を巡り、2日目には豊橋昇天教会を訪れ、婦人会の皆様と一緒に礼拝を行ない、共に深い交流を持ち、大きな喜びの思い出を作ることができました。

これからも神様の愛によって導かれ、新型コロナウイルスの終息を願い、新たな活動ができますようにお祈りをお献げいたします。



2019年5月 大阪教区婦人会一泊親睦旅行 豊橋昇天教会にて

神戸教区

「コロナ禍の中での婦人会」

会長 赤木輝美子

神戸教区婦人会は、近畿・中国・四国地方と広範囲に渡っています。3年に1度、代表者会と大会を開催し、多くの姉妹が一堂に会して共に交わり、信仰を深め旧交を温めます。3年前次期開催地に広島が選出されましたが、2020年はオリンピックの年に当たりホテルの確保が難しいとの事でしたので、急遽日程を決めホテルを押さえました。講師も広島女学院学長 湊 晶子先生にお願いし、今年初め第52回婦人会大会すべての準備が整いました。そのような時にコロナ感染が拡大し、断腸の思いで大会中止と代表者会延期を通知しました。その後、講演原稿などを戴き、大会報告書を作成して、婦人会の皆さまに発送しました。これも被献日献金の活用申請を受け入れてくださいましたお陰と感謝いたします。



2017年大会 久しぶりに集まった姉妹たちが楽しく歓談

教区でも聖職按手式が延期となりましたが、勤務地教会の皆様の強い願いと祈りから、執事按手式が6月に徳島で行われ、宮田裕三新執事様が誕生しました。永野拓也執事様の按手式は再度延期となりましたが、一日も早い新司祭様誕生を願っております。

日本聖公会婦人会に連なる私たちが、教区・教会のために生き生きと働き、行動できる日が一日も早く来ますよう祈っております。

沖縄教区

会長 比屋根るり子

今年の春以降から役員会開催が出来ない中、秋頃には朴 美賢司祭と共に「ロザリオ作り」を行ない、作品をバザーに提供する等楽しい計画を予定していましたが、残念ながら今のところ未定です。

2月に並里輝枝司祭を講師として「沖縄教区婦人会の歩み&被献日献金の学び」や、婦人会の皆さんの好きな聖歌を紹介しながら楽しく賛美♪、その後は茶話会の交わり、喜びの時間を過ごせました。

9月19日の上原成和司祭按手式も大きな喜びですが、コロナ禍で礼拝参加も制限有りになりそうです。3月に神学校卒業の仲宗根遼祐聖職候補生も将来頼もしく、沖縄教区のホープです。若いお二人の支援者として婦人会もお力添え致します。



2020年2月9日 沖縄教区婦人会研修にて

感謝箱献金事務局 (コア)

運営委員長 永井眞由美

「感謝箱献金と SDGs (持続可能な開発目標)」

日頃より感謝箱献金をお祈りとともに、お献げ下さいまして感謝申し上げます。

感謝箱献金と SDGs? どんな関係があるのでしょうか? SDGs は 2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標」で、2030 年までに 17 のゴールを達成するというものです。「誰ひとり取り残さない」という考えを基に、これから創られる未来で生きていく、全ての時代の全ての人々のための目標です。

皆さまがお献げ下さる感謝箱献金はそれぞれのお献

げ先で、17 の目標のうち特に①貧困をなくそう、②飢餓をなくそう、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑩人や国の不平等をなくそう、⑩平和と公正をすべての人に、⑰パートナーシップで目標を達成しよう等に活かされています。

今、世界中で COVID-19 の感染が収まりません。国内外のお献げ先では、より厳しい、困難な状況におかれています。その中であって、お献げ先でも私たちの事を心配して、お祈りくださっています。お献げ先の皆さまの事をお憶え頂きお祈りいただけたらと思います。



SDGs バッジ



会長 ハナナ 井上恵美子

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」のために私たちもメールやリモートを以前より多く利用しています。慣れない機材を使って意思の疎通はしっかり出来ているのかと不安を感じる場合があります。役員会は4月の自粛期間中にも定例会を持ちました。遠い人で片道1時間半、近い人は自転車または徒歩で集まることが出来る大阪の便利さのおかげでした。顔を合わせての会議は時々横道に脱線しながらも、良いアイデアを思いつくことがよくあります。私たちはこの古い生活様式も大切にしながら、次の一年に向け歩んで行きたいと思います。

副会長 マリヤ 井上美津

役員をお引き受けして1年、『第26(定期)総会后第1回会長会』決議録を発送する前後に、『社会福祉法人聖ヒルダ会40周年記念誌』と『日本聖公会の働き人—女性たちの後ろ姿—』の2冊を手にいたしました。2冊を読み進めていく中で、改めて『息吹きを受けて』の年表を見開き、私たちには想像も出来ないような困難な時代にもかかわらず、医療・福祉・教育の場での婦人補助会・婦人伝道師の働きや、日本聖公会婦人会の創立や、感謝箱献金を大磯ベタニヤ・ホームに心を一つにしてお献げしていた事に思いを馳せることが出来ました。

全国の婦人会では、高齢化・献金額減少・会員数減・婦人会の存続などの悩みが、何年も前から話し合われているように思われますが、皆で考え、知恵を出しつつ実施出来たのが、今回の会長会の開催でした。

役員をお引き受けしていなければ経験しなかったであろう、グループLINE・Zoom・オンライン会議・その他の新しい事を、今後の2年間も、最年長の私は“学ぶこと・知ること”を楽しんでいこうと思っています。

コロナ禍だけでなく、別な試練も与えられるかもわかりませんが、どのように乗り越えていくのかは、これからの検討課題でしょう。

この2冊から、より一層の力を与えられた酷暑の時でした。

会計 マリヤ 影山章子

日々のんびんだらりと過ごしていた時、「日本聖公会婦人会の会計をお願いできませんか？」との電話を頂きました。一度は辞退しましたが、結局お引き受けする事になりました。「何もせずにいるのなら、何か少しでもお役に立つことをしなさい。」と神様から賜ったお役目だと思っています。

この1年多くの事を学びました。役員会を通して沢山の方々との繋がりを知ることができました。そして、思わぬ事態でリモートの会長会も体験することになりました。便利さの中で大切なものが忘れられるのではないかという気がします。先人達が築いて下さった礎を大切に、変えてはいけないもの、変えてもよいものを見極めていかなければならないのかなと感じています。

日本聖公会婦人会に繋がる皆様と共に、2年目を歩んでいきたいと思ひます。
神様がいつもそばでお見守り下さいますように。

会計 テレジア 植原久美子

昨年8月、日本聖公会婦人会の役員任命式からあつという間の1年間、私にとって何もかもが初めての経験でした。

6月の会長会は新型コロナウイルスの不安を抱える中で、オンラインによる会議を無事に開催することができました。今の時代に合った新しいスタイルだったと思ひます。

こうした神様のお導きを受けて私たち役員会は2年目のステップに進み出しました。「今までと違う」日々においてもその時々に応じた道が示されることでしょう。

今回感じた日本聖公会婦人会の皆様との繋がりを大切に、私たちのできること、できるかたちを求めながら歩んでいきたいと思っております。

書記 ルデヤ 川村直美

神様のおゆるしがあり、不安の中、役員をお引き受けしました。井の中の蛙である私は、とても多くの事を知り、学ぶことが出来ました。

今回の会長会では想像のつかない事柄の連続でした。各教区婦人会の皆さまが、いろいろな困難、課題点を、大変な努力をし、工夫をして担って下さっていることもよくわかりました。これからも知ること、学ぶことを通して、微力ながら少しでも婦人会会員の皆様のお役に立てればと切に願っております。

書記 ユニケ 山本久美

何もわからないままスタートして一年が経ちました。この一年を振り返ると、想像もしていなかった新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活、そしてプライベートでも大変なことが次々に起こり、日本聖公会婦人会のお役目を続けることができるのか不安になった時もありましたが、神さまのお支えにより、また日本聖公会婦人会のチャプレン・役員の方々、教会の婦人会の方々に助けていただき、一年を終えることができました。もっと大変な時代に始まり 100年以上続く日本聖公会婦人会の活動において、私は先人たちの想いをちゃんと受け継いでいるのか、自問しながら、2年目を歩んでいきたいと思ひます。来年こそは、会長会で全国の婦人会の方々とお目にかかって、交流の一時を持つことができますように！

編集後記

「ニュースレター No. 71」をお届けいたします。原稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大により、多くの集会在中止、または延期になっています。いつ終息するのがわからない中、延期するにも先の予定が立たず、他教会の婦人の皆さまにお会いする機会もなく、寂しい限りです。でも、この状況において、「当たり前」が「当たり前ではない」ということを実感し、今まで当たり前できていたことに感謝する気持ちが生まれました。新型コロナウイルスの終息にはまだまだ時間がかかりそうです。感染に気をつけながら、できることをできる範囲で続けることができればと願っております。 (書記 山本久美)